

低用量アスピリンにすい臓がんの予防効果が期待できる可能性あり

すい臓がんの予後は不良で、5年生存率は5%未満である。アスピリンとすい臓がんリスクの関係を評価した研究はこれまでに13件あり、そのうち4件でリスク減少との関連が示されている。そこで、本研究では米国コネティカット州の住民を対象とした症例対照研究を実施し、低用量アスピリンとすい臓がんリスクの関連を検討した。

2005年1月から2009年8月の間にコネティカット州の病院ですい臓がんと診断された患者362人と同州住民を性別や年齢でマッチングを行った690人を対象とした。解析の結果、アスピリンの使用によりのすい臓がんのリスクは低下することが示された（オッズ比：0.52）。また、低用量アスピリンの服用歴別の解析によると、服用20年以上の群では、アスピリン非使用群に比べてすい臓がんのオッズ比は0.39と低下し、服用3年以内の群でも、アスピリン非使用群に比べてすい臓がんのオッズ比は0.52と低下していた。一方、継続してアスピリンを服用していた群と比べて2年以内に服用を中止していた群では、すい臓がんのリスクは上昇した（オッズ比：3.24）。

したがって、長期的に低用量アスピリンを服用することにより、心臓血管病だけでなく、がんをも予防できる可能性が示唆された。

出典：Cancer Epidemiology, Biomarkers & Prevention. 2014; 23(7): 1-10